

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報  
【第33号】  
発行人 宮本伸一  
事務局 長野市西長野6ノロ  
信州大学教育学部内  
TEL・FAX (026)238-4370



## 新たな一步を 踏み出してみよう

同窓会長 宮本伸一

「初春令月 氣淑風和」平成から令和へ。新しい時代の歩みが始まりました。

同窓会は昭和62年に設立され、まさに平成の時代とともに、歩んでまいりました。信州大学校友会・同窓会連合会との連携。支部組織の強化と組織充実。会員への研究助成。学部環境充実への後援。教職を目指す学生への支援。会報、HPでの情報発信。そして、平成29年、念願であった同窓会館としての機能をもつ「赤煉瓦館」の完成。

昨年の第31回通常総会では「魅力ある同窓会」をキーワードとし、様々なお立場からのご意見をお聞きしました。会員の皆様にとって、同窓会がより身近なものとして存在し続けるために、どう魅力を生み出していったらよいか。これが今後の課題と受け止めました。

その後、幹事会、理事会の中で様々な視点から議論を重ねてまいりました。第32回通常総会では、組織充実のための支部組織の在り方。会員・学部への

支援。現状に合った会則の見直し等について提案したいと考えております。

さて、会員の皆様にご協力いただきました30周年記念事業ですが、ここで一旦区切りをつけさせていただきます。306名の皆様から頂戴した寄附金は、赤煉瓦館の調度品の購入、名称看板・シンボルマークの作成などに使わせていただきました。ご賛同いただきました皆様、心より御礼申し上げます。

信州大学は昭和24年、新制大学として創立されました。今年70周年を迎え、6月1日、松本で記念式典が挙行されました。信州大学も一つの節目を迎え、新たな一步を踏み出します。教育学部同窓会もこれまでの足跡を大切に、4月に就任された宮崎樹夫新教育学部長様とも長期的な展望に立った情報交換をさせていただきながら、更なる活動の充実を図り、令和の時代を歩んでまいります。

今後とも、会員の皆様のご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

### 第十六期同窓会役員名簿

(平成29年8月～令和元年8月)

名誉会長 永松裕希(31年3月)

宮崎樹夫(31年4月)

顧問 佐野昌男 中田宣彦 三寺勝美

玉川隆雄 町田修 深澤弘二

中澤寛 土屋聖史

会長 宮本伸一

副会長 小林亨 清水秀明 池上昭子

監事 原田良介 松本千恵子

本部理事 西澤道生 中村礼子 畔上一康

岩田靖 齊藤忠彦 小林比出代

茅野公穂 茅野理恵 伊藤冬樹

地区理事 安達仁美 瀧直也

下伊那 川手浩司 上伊那 藤澤義富

諏訪 柳平正司 木曾 勝岡美智也

北安曇 山崎晃 安曇野 細萱稔

松本 湯本武司 佐久 小林英明

上小 片桐芳之 更埴 中澤英治

上水内 小林重之

須坂上高井 寺島寿一

中野下高井 清水恒善

飯山下水内 小林和人

塩筑 横山卓朗

長野 中村和雄 林 臣彰

高校 富岡修

県外 功刀道子 井出良子

和田 裕

水倉美和子(31年3月)

小池 勲(31年4月)

宮尾弘子 酒井英樹 佐藤 武

森下 孟

事務局 中村直人 新谷静香

### 力漲る先生を育てる！

教育学部長  
宮崎 樹夫  
(みやざき みきお)



同窓会の皆様、日頃から信州大学教育学部の様々な取り組みをお支えくださり、心から感謝しております。以下に「教師」として真に秀逸な人材を育成し続ける学府の樹立に向けて、基本的な理念と具体的な取組について御紹介させていただきます。

#### 「先生」は国の宝である

この国と社会の未来を形作るのは、間違いなく今の「子ども達」です。その子ども達を地域と共に学校で守り育てているのは「先生」です。ですから、「先生」の質が高ければ高いほど、学業を終えた子ども達の「旅路」は一層実り豊かなものとなり、この国と社会を支える一人ひとりの行く末は一段と光り輝くものとなるのです。つまり、「先生」は国の宝といえるのです。

#### 力のある先生の資質…智慧、勇氣、そして覚悟

「子ども達が好き」「教えるのが上手になりたい」、これらはとても大切なことです。しかし、もっと大事にしてゆかねばならないのは、明日を生き抜く子ども達を、猛り狂う時代の荒波のなかで守り育て抜く智慧と勇氣、そして、その覚悟があるかどうかです。

『深雪(みゆき)せる、野道(のじ)に小さき、沓(くつ)の跡、われこそ先に、行かまじものを』(林 芋村先生) こうした志こそ、真に秀逸な先生が身に付けておられる資質なのです。

#### 具体的な取組

教員採用試験の対策を強化します  
教員採用試験に向けて、これまでも教職員全員で

面接試験対策を講じて参りました。19年度からは、教員採用試験対策を専門とする業者と教職員が協力し、面接試験のみならず学力試験についても一層実効性の高い対策を講じることに致しました。

#### 教職大学院への進学を推奨しています

我が国では、学校の先生を教育学部4年間と教職大学院2年間で一貫して育成する施策が現実動き始めています。信州大学教育学部においても、本学部を卒業した後に信州大学教育学研究科(教職大学院)に進学し、実践的な資質・能力を高めるとともに、学部で取得可能な免許状より格上の専修免許状を取得するよう強く推奨しています。

### 学部の新転任・

### 転退職教員の紹介

#### 【平成30～31年度新転任教員】

- 木村 容子 先生(社会科教育)
- 青山 拓実 先生(言語教育)
- 鎌倉 大和 先生(教職大学院)

#### 【平成30年度転退職教員】

- 榊原 保志 先生(理科教育)
- 平成7年4月1日 着任、定年退職
- 中谷 惣 先生(社会科教育)
- 平成26年4月1日 着任、退職
- 油井 幸樹 先生(教職大学院)
- 平成28年4月1日 着任、退職

(長野県との人事交流)

### 皆さんの使命(ミッション)

榊原 保志

教育学部を卒業した多くの皆さんは晴れて学校に赴任し、教師になるという夢が叶ったことと思います。教育現場は如何でしょうか。学校訪問し本学の卒業生が頑張っている姿を知ると嬉しく思います。

大学で学んだ教育学、教科内容や指導法の講義内容はあくまで教師として教壇に立つ上での基礎であり、教育現場で学ばなければならないことが多くあります。教員になっても学び続けなければ一人前の教師になれません。教壇に立ち、クラス担任になると、楽しく笑っている

時ばかりではなく、悲しい時、辛い時もあります。自分の努力不足を顧みず、皆さんに責任転嫁する子も現れるかもしれません。クラスにはできる子もできない子もいます。自分で与えられた課題をどんな解決する子もいます。課題を途中で投げ出す子もいます。教室には様々な子がいますが、クラスで問題を起こす子は大抵決まっています。彼(彼女)がいなければ自分のクラスはどんなに良いだろうと思う時があるかもしれません。もしかするとすでに経験した方もいるかもしれません。

そんな時考えてほしいことは、皆さんの使命は何かということ。子ども達が一人前の大人になるために必要な知識や技能を教える(伝える)こと、社会に出て頑張ろうと意欲を持たせることなどです。うまくいかない子ども達にこそ、優秀な先生が必要で、広い心でその子に接しててください。小さな命は全力でぶつかってきませんが、大きな心で受け止め焦らず歩んでください。私の経験では、時間をかければ皆さんの誠意は必ず伝わりま

す。国の発展は人材の育成なくしてありえません。その展望に立ち、日本に教育部門で支援を求める開発途上国は多いと聞きます。90年代に米国の教育学者キャサリン・ルイス博士が日本・ドイツ・米国の多くの授業VTRを

視聴し分析したところ、日本の教師の教授スキルが他国と比べ格段に高いとする結果を得ました。さらに、日本固有の学校文化である「授業研究」の存在がその背景にあると結論づけました。これ以降日本の教育、特に「授業研究」が国際協力分野で脚光を集めるようになりました。

私は開発途上国の学校を訪問する機会が何度もありますが、日本のようなすばらしい教育環境を有する国は非常に少ないです。カンボジアでは、簡単な実験器具も購入できない予算、多くの間違いが見られる教科書、教科書の内容を理解できない教師、単に詰め込み型の授業でよしとする教育界の風潮、余りにも低い教員の給与が課題としてあげられます。どこから手を付けていったら良いか難しい問題です。しかし、私の感触ではカンボジアの将来は暗くありません。自分の国をよくしたいと考えている若者が多いからです。

平成20～28年にかけて私はカンボジア政府が選んだナショナルトレーナー（教員養成校の先生）に日本型理科教育の方法を伝える国際協力プロジェクトに携わっていました。カンボジアで簡単に手に入る物品で教材を作成し、研修会の準備することを心がけました。受講者の多くは30歳代の若い年齢層でした。カンボジアではポルポト政権下で知識人が大量虐殺され、社会の中核となる年齢層が極端に少ないという現実があります。現在、彼らが学んだことをカンボジアの教師の卵に伝えていきたいと思います。

カンボジアには『水1滴1滴が集まると大海になる』ということわざがあります。今は確かに、限定的な人にもたらず1滴1滴かもしれません。しかしこの1滴1滴がやがて何万人、何十万人の心に浸透し、かけがいのない「大海」がカンボジアに現れるものと信じています。皆さんがこれから携わる仕事も私が行っていた仕事と同じです。日本の将来を背負う子ども達の教育です。学校教育は国造りの基盤であることを自覚しご尽力頂きたい。そして皆様の活躍こそ、私の誇りです。

# 第三十一回 同窓会通常総会報告

## 1. 通常総会の日時・会場

平成30年8月11日（土・祝）午前10時開会

ホテル信濃路「穂高」長野市中御所 131-4

## 2. 出席者数

58名

## 3. 開会宣言

池上 昭子 副会長  
進行：和田 裕 幹事長

## 4. 挨拶

宮本 伸一 会長

## 5. 議事

議事に先立ち、会則第16条に基づき、総会議長の互選を行った。

## (1) 議長団の選出

寺島寿一・清水恒善の両理事を議長団に選出した。

## (2) 議事録署名名人の選出と書記の任命

中村和雄・藤澤義富の両理事を議事録署名名人に選出し、佐藤武・森下孟の両幹事を書記に任命した。

## 第一号議案

平成29年度事業報告書、歳入歳出及び財産目録の承認について

## (1) 中村直人事務局長より総会資料に基づき、平成29年度事業について説明があった。

酒井英樹幹事より資料に基づき、平成29年度一般会計歳入歳出決算、特別会計決算、基本財産決算並びに財産目録について説明があった。また、原田良介監事より業務監査・財務監査の結果、適正に処理されているとの報告があった。原案どおり賛成多数で可決した。

## 第二号議案

平成30年度事業計画（案）及び歳入・歳出予算

## (2) 議事録署名名人の交代について

第16期役員について

## 第三号議案

永松裕希学部長よりご祝辞をいただいた。

## 7. 閉会宣言

清水 秀明 副会長

## (案)の承認について

(1) 中村直人事務局長より資料に基づき、平成30年度事業計画（案）について説明があった。

(2) 酒井英樹幹事より資料に基づき、平成30年度一般会計歳入歳出予算（案）について説明があった。原案どおり賛成多数で可決した。

第16期役員について

## 第三号議案

永松裕希学部長よりご祝辞をいただいた。

宮本伸一 会長より、人事異動に伴う役員交代について報告があった。

## 6. 来賓祝辞

永松裕希学部長よりご祝辞をいただいた。

永松裕希学部長よりご祝辞をいただいた。

永松裕希学部長よりご祝辞をいただいた。

## 7. 閉会宣言

清水 秀明 副会長

### 平成29年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

歳入合計額 4,886,713円也 自 平成29年4月1日  
歳出合計額 4,295,686円也 至 平成30年3月31日  
差引残額 591,027円也 翌年度へ繰越

平成30年8月11日 提出  
平成30年8月11日 承認

信州大学教育学部同窓会長 土屋聖史

#### (歳入の部)

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1前年度繰越金	506,697	506,697	0	
2会費	4,920,000	4,380,000	△ 540,000	219名入金
3雑収入	100	16	△ 84	利子
歳入合計	5,426,797	4,886,713	△ 540,084	

#### (歳出の部)

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1会議費	550,000	451,706	98,294	総会・役員会等
2事業費	950,000	674,413	275,587	会報・学部後援等
3事務費	1,585,000	1,400,921	184,079	会報発行・印刷等
4事務委託費	1,588,000	1,582,000	6,000	雇用費等
5雑費	150,000	136,646	13,354	連合会会費・謝恩会御祝儀他
6予備費	603,797	50,000	553,797	
歳出合計	5,426,797	4,295,686	1,131,111	

「同窓会シンボルマーク」と  
「赤煉瓦館の名称看板」が  
できました。

平成29年に迎えた同窓会30周年の折に、多くの方から寄付をいただきました。その寄付金の一部を使わせていただき、同窓会のシンボルマークと赤煉瓦館の名称看板を作成しましたので、報告いたします。

同窓会シンボルマーク

教育学部美術科卒業生の切り絵作家・柳沢京子氏に同窓会のシンボルマークのデザイン・制作をして



作成していただいたシンボルマーク

いただきました。柳沢氏には、私たち同窓会の仲間として快くお引き受けいただき、素晴らしいシンボルマークを作っていただきました。赤煉瓦館とともに、私たちのシンボルとして、これから大切に使用させていただきますと思います。

なお、原画は赤煉瓦館に展示してあります。

ます。会員の皆様には、ぜひ赤煉瓦館へおいでいただき、原画もご覧ください。



「原画の裏面」  
「教育」の樹  
根を張り  
枝を伸ばし  
実を結ぶ

「同窓会シンボルマークに寄せて」

デンとこの地に構える『教育の樹』を刻みました。ここで学んだ私たち一人ひとりには、動ける1本の樹。その樹の基から、多くの芽生えが育つ教育は、掛け替えの無い掛け算だと思っています。

このシンボルマークに出会った瞬間、この地で学んだ時間が、それぞれに湧き立ってきますように、との願いを込めました。

信州と言う大地の風土に感謝しつつ…。

平成30年 柳沢 京子



「柳沢京子氏のプロフィール」  
1944年北佐久郡浅科村（現佐久市）生まれ。地元野沢南高等学校を卒業後、信州大学教育学部美術科へ進みデザインを中心に研鑽を重ねる。

卒業後は信越放送局勤務を経て、1968年デザイン・スタジオ・ブレインを主宰し、デザイナーとして独立。以降、デザイナー・切り絵作家として活躍、国内外で多数個展を開き、作品を発表し続け、その大きな功績により1998年にNHK地域

放送文化賞を受賞。  
1996年には(株)柳沢京子事務所を設立し、現在も精力的に制作活動にあたっている。  
長野市在住。現在さくら国際高校（上田市）副校長も務めている。

赤煉瓦館の名称看板

平成29年の同窓会創立30周年記念事業として整備された「赤煉瓦館」の看板を制作しました。



市内の家具店に依頼して板材を探していただいたところ、横幅約40cm、縦幅約100cm、厚さ約4cmの山桜一枚板を調達することができました。

「信州大学教育学部同窓会 赤煉瓦館」の文字は、信州大学教育学部教授の小林比出代先生にご揮毫いただきました。小林先生は同窓会員であるとともに、本部署理事も務めていただいています。隸書体で、格調高い文字を揮毫していただきました。

この看板は、赤煉瓦館の玄関を入った正面の、事務室カウンターの上部に掲示いたしました。シンボルマークと合わせて、同窓会のシンボルとして末永く大切にしていきたいと考えています。



# 魅力ある同窓会

信州大学教育学部同窓会は、教育学部第一期生が中心となった同窓会設立準備会の尽力により創立されました。教育学部が設置されてから約40年を経た時期で、今年で創立31年となります。

教育学部同窓会の主な目的は、次の二つです。

1 同窓生に関わる情報を発信したり、互いの親睦を深めたりする

2 学部環境充実の一助を担うことや学部・院生が生き生きと学生生活を送るための助成や、教職を目指す学生への支援を充実する

同窓会はこの目的を達成するために、同窓生への研究助成、学部生・院生への後援、学部環境充実、会報の発行、ホームページの開設・更新等を行っています。会員の皆さんにとって同窓会がより身近で、学びや研究がより豊かなものとなるよう、30年の時をかけて工夫されてきました。このことが、長野県の教育の水準を上げたり、長野県の産業や文化・スポーツの発展に寄与することにつながったりしています。

特に昨年度は、同窓会発足30年記念事業として、学部北校舎北に「赤煉瓦館」の整備工事を完了し、同窓生が広く交流し、様々な活動ができる拠点となっています。また、毎年行われる8月の教育学部同窓会総会では、事業報告とともに、各界で活躍する方々を講師に迎え、興味深い講演会を開催しています。

## 毎年8月に開催 通常総会

信州大学教育学部同窓会は、毎年8月11日(祝)に長野市内のホテルを会場として、通常総会を開催して

います。まず、同窓会の前年度の事業と会計決算の報告、本年度事業の計画案・予算案を、それぞれ承認していただきます。主な事業としては、同窓会報発行、会員への研究補助事業と学部後援、同窓会の組織充実です。その後、役員の変更案の承認を受けて新役員が紹介され、新年度のスタートとなります。

同窓会創立30周年だった平成29年度は、総会に併せて記念式典と記念講演会が行われました。式典の中で、同窓会が記念事業として教育学部敷地に整備してきた「赤煉瓦館」が、同日竣工を終え、教育学部に寄贈されました。今後の有効活用が期待されます。

記念講演会では、青山学院大学陸上部監督・原晋氏による「箱根駅伝」から学ぶ成長するための



原 晋氏

秘訣」と題して講演がありました。熱い情熱と信念をもって指導されるその眼差しとお人柄に魅了された時間でした。また、昨年の第31回総会では、教育学部



小 平 奈 緒 氏

同窓生のスピードスケート選手・小平奈緒氏による講演がありました。オリピック金メダルへの道のりや、求道者のような生き方や言葉に感銘を受け、勇気をいただきました。

## 研究助成と学部支援の取組

同窓会として、広く同窓会員の活動を支援すべく、

様々な活動に取り組んでいます。具体的には会員の教育研究への補助、教育学部「留学生後援会」基金への拠出、文化祭(銀嶺祭、まほろば祭)への補助、学部・大学院への支援、現役生の就職活動の支援、支部・卒業学科等の活動への支援を行っています。

ここでは、3つの事業について紹介します。教育研究への補助事業は、教育学部同窓会員で同窓会費を納めている方を対象に、日々の研究や実践に対して支援を行う活動です。研究の概要をA4版1枚にまとめて提出いただければ、1人1万円を補助します。

趣旨は①日々の教育研究・教育実践を大切に、専門職としての自らの教育改善に努める、②教育の振興・改善について情報を共有することです。研究補助費の使途や研究実践報告書の提出は求めています。予算の関係で毎年10名ほどとさせていただきます。

2つ目は、現役生の就職活動支援です。多くの現役同窓生に教員になってほしいという願いから、教員採用試験に向けた模擬試験料を1人1回限りで千円補助しています。

3つ目は、支部・卒業学科等の活動への支援です。この事業は、それぞれの地区や卒業学科ごと等の同窓会活動を支援することで、同窓会活動への関心を高め、会員相互の連帯を高めることを目的としています。それぞれの活動に対して、1団体につき2万円を補助します。なお、申請内容を検討し、補助するかどうかを決めさせていただきます。

どの支援事業も、それぞれの分野で日々奮闘されている同窓会員の手助けになればという気持ちで行っています。詳細については、信州大学教育学部同窓会のホームページをご覧ください。同窓会事務局へお問い合わせください。

# 研究補助事業

## 研究補助事業のご案内

平成15年度より実施しています同窓会研究補助事業についてお知らせします。

本事業の趣旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくことに置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に1万円を補助しています。

応募希望者は、所定の様式『研究補助願及び研究概要』にしたがって、同窓会事務局（〒380-8544 長野市西長野6-10）にお申し込みください。当該年度の11月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会Webサイトをご覧ください。なお、当該年度の研究補助は先着10名までとなっています。受付可能かどうかを確認しますので、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせください。



飯田市立座光寺小学校 長坂 朋美  
ドレミパイプは、長さの異なるポリエチレン製のパイプで作られており、机や床などを叩くことで音

階を出すことができる楽器である。音階を出すための練習は特に必要なく、楽器の演奏が得意な児童でも気軽に演奏することができる特徴を持つ。

本授業実践では、ドレミパイプの簡便性を生かし、オリジナルソングづくりを行った。これまで音楽に苦手意識を持っていた児童も作曲しながら演奏し、曲を修正することができるために、気軽に「Try & Error」を体験することができた。

タブレット端末のカメラ機能を使うことで、自分や友達の演奏している姿を見合い、アドバイスをしあつて、お互いの作品を評価し合う姿もみられた。自分が演奏している姿を、タブレット端末を使って友達に撮影してもらったことで、自分の演奏を繰り返し聴き、「もう少しリズムを早めようかな」「ここは一拍あけてみよう」など、試行錯誤しながら作曲を行うことができた。また、演奏の記録はタブレット端末内に残すことができるため、過去の演奏と聞き比べて良くなった点を認識したり、逆に過去の演奏の方が優れていた点を見つけ変更前の作品に戻す姿もみられた。ドレミパイプの演奏の簡便性とタブレット端末での映像記録が組み合わさることで、児童自らが学びの軌跡を振り返り、試行錯誤しながら、よりよい作品づくりに向け



### 平成30年度 研究補助交付者

氏名	勤務校	研究課題
1 市川 元彦	下諏訪町立下諏訪小学校	学習意欲の喚起と学力向上の取組
2 龍野 武利	上田市立第三中学校	教科「道徳」へ～授業改善のあり方を求めて～
3 鈴木 雅幸	小諸市立美南ガ丘小学校	子どもが『わかる』『できる』『つかえる』を実感できる授業へ
4 清水 秀明	長野市立城山小学校	地域ボランティアを生かした英語教育
5 宮尾 弘子	長野市立浅川小学校	ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業、学級、学校の在り方
6 長坂 朋美	飯田市立座光寺小学校	ICTを活用した音楽的表現力の育成
7 平川 達也	上田市立神科小学校	小学校中学年段階におけるネット型ゲームの教材・教具の設定について
8 篠崎 淳子	軽井沢町立軽井沢西部小学校	自分の思いを語り、友の思いを受けとめ、生き方を深める道徳授業のあり方
9 飯島 政昭	長野市立川中島中学校	一次関数とみなすことの意識化を促す授業の在り方

て没頭することができた。完成したオリジナルソングは、総合的な学習の時間で取り組んできた人形劇の劇中BGMとして活用した。今後も様々な教科のなかでICTを活用し、児童たちが主体的に学べる授業づくりに取り組んでいきたい。

.....

平成30年度助成交付の研究テーマは次のとおりでした(全9件)。

卒業・修了生の就職状況

就職部長 関 良徳

本学部の就職支援活動に対して教育学部同窓会より多大なご支援をいただき、心より感謝致します。

さて、平成30年度の教育学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況が下欄の表のとおりにまとまりましたので、ご報告致します。教員就職率は昨年度と比べ、若干上昇しましたが、ほぼ昨年度並みとなっています。この要因として、民間企業志望者が一定数存在する一方で、今年度の長野県教員採用予定数が増加したことが挙げられます。

来年度は教員就職率の上昇を目に見える形で実現したいところですが、そのためには学生の教員志向をさらに高める必要があります。長野県より公表された採用選考要項により、来年度も今年度同様の採用数が予定されており、本学部からの受験者数が増加すれば、教員就職率も上昇すると考えられます。そのため、本学部では教員採用に実績のある外部企業と連携し、学部内で講座や模擬試験を実施するなどの新たな取り組みを開始致しました。また、長野県では小・中学校に関して県内を四地域に分けたブロック採用や、教員免許・資格に応じて加点を行うなどの新たな制度が導入されました。こうした選考方法もたらす影響についても注視する必要があります。本学部では皆様からご支援をいただき、教員採用率の向上に努めて行く所存です。今後皆様から忌憚のないご意見・ご要望をいただき、就職支援を充実させたいと考えておりますので、よろしくご願ひ申し上げます。

平成30年度 卒業生・修了生 進路状況

Table with columns for '就職・進学別' (Employment/Advanced Study), '就 職' (Employment), '進 学' (Advanced Study), and '合 計' (Total). Rows include '学部 大学院別' (Faculty/Graduate School), '教 員' (Faculty), '学 部' (Faculty), '研 究 科' (Research Course), and '合 計' (Total). The table contains detailed numerical data for various categories and sub-categories.

(注) ( ) は臨採で内数、○は外国人留学生で内数

Summary table with 3 rows and 2 columns: '就職率(学部)(進学者を除く)' 94.32%, '教員就職率(学部)(進学者を除く)' 63.32%, '教員養成課程卒業生に対する教員就職率' 61.71%

信州大学教育学部同窓会

第三十二回通常総会(通知)

日時 令和元年8月11日(日・祝) 午前10時より 会場 長野市岡田町 「ホテル信濃路」

- 次第 1 開会宣言 2 会長挨拶 3 議長団選出 4 議事録署名人の選任並びに書記の任命 5 議事 第1号議案 平成30年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について 第2号議案 令和元年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)について 第3号議案 第17期役員改選について 第4号議案 会則の一部改正について 6 来賓紹介・代表挨拶 7 閉会宣言

記念講演会:12時より 講師:高波 鐵夫 氏 祝賀懇親会:13時より

2018年北海道胆振東部地震と海溝地震との関係を探る



ワシントン・カーネギー研究所 客員研究員 理学博士 高波 鐵夫

2018年9月6日北海道胆振東部に起こったマグニチュード6.7の地震で大きな被害が出ました。この地震は、この地域に蓄積された歪みが活断層のずれによって解放されることで起きた「内陸地震」です。

一方、海溝やトラフの地下で固着していた2つのプレート境界が一気にずれる「海溝型地震」があります。いま、懸念されている大きな海溝型地震は北海道沿岸の千島海溝地震と西日本全域に影響が及ぶ南海トラフ地震があります。最悪の場合、いずれも2011年東日本大震災級の超巨大地震(マグニチュード9)になる恐れがあります。

この胆振東部地震と千島海溝付近で想定されてい

る海溝型地震との関係性について、最新の研究と観測データをもとにお話いただきます。

略歴

- 1968年3月 信州大学教育学部(理科)卒業。 1971年3月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了。 1973年3月 同大学院博士課程退学、北海道大学助手。 同年4月 北海道大学助手。 1991年 ワシントン・カーネギー研究所 Postdoctoral Fellowship。 2009年3月 北海道大学退職。 2009年5月 ワシントン・カーネギー研究所客員研究員。 2011年4月 東京大学地震研究所客員教授。 2012年7月 地震予知総合研究振興会本部主任研究員。 2013年4月 統計数理研究所外来研究員。 2013年8月 ワシントン・カーネギー研究所 客員研究員(現在)。 2014年4月 東京大学地震研究所外来研究員(現在)。 2014年12月 地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所主任研究員。 専門は固体地球物理学。

記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会(会費五、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。

事務局より

同総会ホームページをご覧ください

事務局の紹介や同窓会報のバックナンバー等を閲覧することが出来ます。信州大学教育学部同窓会で検索、または、以下のURLをクリックください。

http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/

教育実践補助受付中

教育実践補助申請を4月より受け付けています。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の6ページ「研究補助事業」の欄をご覧ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されています。

住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届けを事務局宛てにお願いいたします。メールでも結構です。

会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いにご注意ください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振込手数料等がかかりますので全額返金はできません。

事務局連絡先

電話 026-238-4370 月・水・金 9:30 ~ 16:00 HP http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/ Email kdousou@shinshu-u.ac.jp